

仙台陣屋かわら版

第九十号

(平成二十四年八月号)

HP: <http://www.town.shiraoi.hokkaido.jp/ka/jinya/> Mail: jinya@town.shiraoi.jp
〒059-0911 白老町陣屋町六八一 TEL&FAX 0144-851-2666 仙台藩白老元陣屋資料館発行

特別展開催中！懐かしの鉄道遺産

鉄道と地域の関わりを探るべく企画した展示会が、七月二十一日(土)に開幕しました。最近では北海道新幹線の札幌延伸が認可され、より早くより快適な鉄道の旅の実現が待ち望まれますが、ここで少し昔のことを思い返してみたいかがでしょうか。

今回の展示資料を、数点ご紹介します。かつて小樽手宮く三笠幌内間を結んだ【幌内線】は、北海道の近代産業を発達させるべく、大量の石炭を運んでいました。小樽市総合博物館より借用した【小樽港実地明細図(明治二十六年)】からは、積出港であった小樽の、札幌をも上回る賑わい振りが伝わってきます。この小樽と並ぶ輸出港として注目された港が室蘭港です。若見沢から分岐した線路は太平洋に沿って西進し、その途上にあつた白老は、かなり早い段階で駅が開設されました。当時は【炭鉱鉄道株式会社】が鉄道運営等を掌握していたのですが、陣屋資料館に

この同社発行の同窓会誌が収蔵されています。料金表や時刻表が記載されていますので、初期の北海道鉄道の様子をうかがい知ることが出来る興味深い資料です。

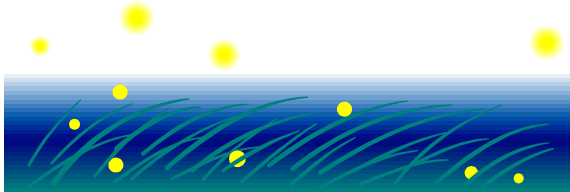
ところで、現在でこそ札幌から函館までは特急で乗り継ぎなく向かえますが、この時代は鉱産資源の運輸が一番の目的でしたから、路線は室蘭までしか敷かれていません。東室蘭(旧 輪西)から函館本線の長万部が接続されたのは、三十六年後の昭和三年でした。これを受けて伊達・室蘭の事業家は、伊達から分岐して内陸部を縦貫する路線【胆振縦貫鉄道】の敷設に乗り出します。このときの測量図である【胆振縦貫鉄道三斜図】は、部分的ながらも極めて貴重な資料といえます。ちなみに【胆振縦貫鉄道】とは、【国鉄 胆振線】となる前の路線名です。【京極軽便線】・【胆振鉄道】などといった既存の路線から、昭和十九年に【国鉄 胆振線】が誕生しました。各区間の開業に至るまでの経緯を調べていくと、鉄道の存在が地域の発展に不可欠であ

った理由を再確認できます。

国鉄化以前の資料は殆ど残されていませんが、貴重な鉄道遺産を関係自治体や施設のご協力により展示しています。ひよっとしたら、どこかで見たいところのある資料と再会できるかも知れません。【胆振線】に乗ったことがない人も、かつて(あるいは現在でも)最も身近であった乗り物の歴史に触れてみてください。

夏の風物詩

夏の恒例企画、「陣屋ホテル 観察会」を今年も実施します。八月三日(金)・四日(土)の二十時より史跡白老仙台藩陣屋跡にて行ないます。参加費・予約は不要ですので、資料館までお気軽にお集まりください。会場まで職員が案内しますので、安全のためにも時間厳守をお願いいたします。史跡内は非常に暗く、遅れて来られると危険です。また虫刺され対策もお忘れなく。暑くても長袖がお勧めです。過度な防虫スプレーは強にも影響を与えますからご注意ください。なお両日とも二十時まで開館しています。時間までは特別展でもご覧になって、のんびりとお待ち下さい。



歴史講座、好評博す！

【平成二十四年度 白老歴史講座】前半の予定が終了しました。前号では第一・第二講を紹介しましたが、今号では和入勢力の拡大から陣屋の撤退までを扱った第三・第四講を紹介いたします。

六月二十三日の第三講では、はじめに東北アイヌと日本の古代政府である大和朝廷との関わりから、次第に拡大する和入勢力の動向に着目。年代に沿って出来事を追い、異なる集団間に起こった支配制度特徴や、衝突への流れを説明されました。十四世紀までに東北への進出を遂げた和人は、十五世紀頃になると更に北海道まで足を延ばし、勢力の拡大を図ります。徳川幕府が成立するころには松前氏が道南一帯の支配者となり、じわじわと北海道アイヌの居住域へ影響力を強めていきます。そして【シャクシャインの戦い】に



おける勝利により、その威勢をほぼ確実なものとししました。松前氏の勝利は場所請負制度へのアイヌの従事を強いる状況を確認し、その後の近江商人などによるアイヌ労使へと繋がっていきます。ところが十七世紀頃になると、徐々に北海道の周囲に外国船が訪れるようになり、幕府の命による北方警備の歴史が展開されていきます。

次いで三十日の第四講では、まず北海道を取り巻く外国情勢を整理。諸外国の情勢に翻弄される中、国内も動乱の時代を迎え、最終的に大きな転換となる政権交代が起こります。白老でも仙台藩が撤退し、新政府による入植事業が始まります。当初、白老には一関藩が移住しますが、成果を上げることが出来ないまま短期間で去る形となりました。その後は開拓使直轄となり、次々とアイヌ民族を否定する政策が押し進められていきます。

四回の講座を通しての質疑応答では、縄文文化について質問が多く寄せられました。世界遺産登録が進む中、皆さんやはり興味をもたれるようですね。名前は有名でも実はよく知られていない縄文文化ですが、講座を通じて学んでもらえたかと思えます。

会場をコミセンに移して開催した歴史講座ですが、十月からは近世・現代までが取り上げられます。新たに参加を希望される方も、是非お気軽にご来場ください。

第99回白老塩釜神社例大祭 & 「陣屋の日」!!

仙台藩士がこの白老を訪れてから、一五〇年以上の歳月が流れました。藩士が故郷から勧請した塩釜神社は、今年で九十九回目の例大祭を迎えます。塩釜神社の祭神は【塩土老翁神(シオツチノオシノカミ)】、【武甕槌神(タケミカヅチノカミ)】、【経津主神(フツヌシノカミ)】の三柱で、延命長寿・海上守護・武徳などに神徳の高い神社です。陣屋では「白老御陣屋の塩釜様御祭に付ては参詣の御人数、長屋よりは酒、でんがく、でんがくどうふ・でんがくもち・御勘定所よりは赤飯、飲次第喰次第にて施体在之候由にて大祭之由に承り申候」と、国元と同様の式典を行なっていました。文献を読んでみると、神社は藩士の暮らしと密接であり、心の拠り所となっていたことがわかります。八月十日(金)は十時から藩土墓地で供養祭が、十一時から塩釜神社で例大祭が執り行なわれます。なお、例大祭に合わせて開催する「陣屋の日」ですが、今年は計画停電の予定時間と重なったため、時間をずらして実施予定。詳細は瓦版の号外でお知らせします。

「仙台陣屋かわら版 第九十号平成二十四年八月号」

発行日：平成二十四年七月二十四日(火)

発行所：仙台藩白老元陣屋資料館 担当者：平野・干場